



ハイブリッド手術室

## ハートニュース Vol. 9 巻頭言

本年は、例年になく予想を超える豪雨が各地で頻発し、想定外といった言葉は最早通じない異常気象となっています。社会は超高齢化時代に突入する一方、動脈硬化病変とそれに基づく病的血栓形成を発症原因とする心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈硬化疾患などの全身の動脈硬化疾患の罹患率は、若年から高齢まで全世代で増加しています。

最近の報告では、冠動脈疾患患者の約4分の1は他の脳血管疾患や末梢動脈疾患を有するいわゆる“Polyvascular Disease”という概念が提唱されています。

当院でも、循環器内科では、腎動脈を含めた末梢動脈疾患に対するカテーテル治療、心臓血管外科では、今年4月に新設されたハイブリッド手術室での大動脈疾患の治療など冠動脈以外の全身の血管の治療を積極的に行っています。

今回は上記疾患についての当院での治療の現状について報告します。

大阪市立総合医療センター 循環器センター部長

循環器内科部長

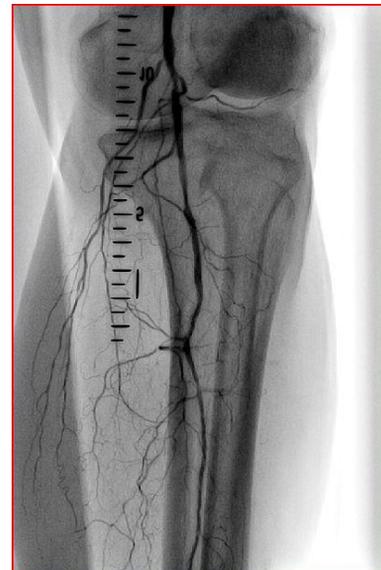
成子 隆彦

## 下肢閉塞性動脈硬化症について 循環器内科 小松龍士

下肢閉塞性動脈硬化症とは、下肢の動脈の狭窄、閉塞による血流不足から、下肢の冷感や歩行時のしびれ、疼痛などをきたし、さらに進行すると安静時の疼痛、潰瘍形成を引き起こす疾患です。

当院では2005年頃から下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療を積極的に行っております。腸骨動脈、浅大腿動脈に対しての治療のみならず、最近では、これまで適応外であった膝窩動脈以下の動脈病変に対しても、カテーテル治療を行っております。

また当院では、造影剤の使用が躊躇される慢性腎臓病の患者さんに対しても、下肢MRAによる血管評価後に、通常の造影剤を全く使用せず炭酸ガス造影を用いる方法によってカテーテル治療を行うことが可能です。労作時の下肢痛、下肢の冷感がある患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一度ご紹介ください。



治療前

治療後

### 循環器内科外来担当医のご案内

|    | 月           | 火  | 水          | 木  | 金  |
|----|-------------|----|------------|----|----|
| 午前 | 阿部          | 小松 | 占野         | 柚木 | 成子 |
| 午後 | 阿部          | 小松 | 中川         | 柚木 | 成子 |
|    | 中川(ペースメーカー) |    | 古川(2,4,5週) |    |    |

### 地域初診外来

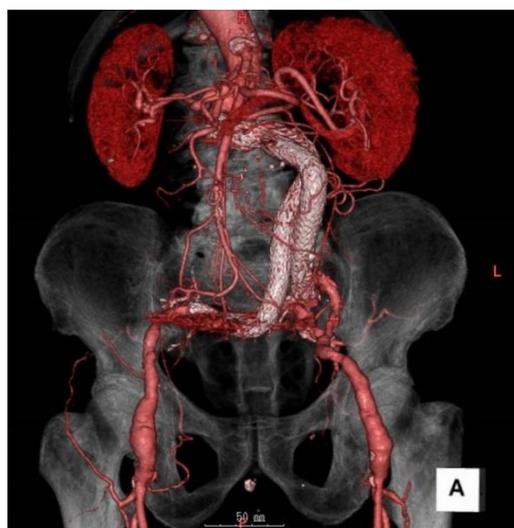
|    | 月  | 火 | 水       | 木  | 金  |
|----|----|---|---------|----|----|
| 午前 | 成子 |   |         | 成子 | 阿部 |
| 午後 |    |   | 占野(不整脈) |    |    |

## ステントグラフトを用いた大血管治療(赴任のご挨拶を兼ねて) 心臓血管外科 尾藤康行

7月から前任の元木に代わって新たに心臓血管外科に赴任いたしました平成12年卒の尾藤です。平成21年から2年間当院に勤務した後、約3年間の大阪市立大学附属病院勤務を経て再度当院へ戻ってまいりました。どうぞお見知りおきの程よろしくお願い申し上げます。

さて、当院では従来から大動脈疾患に対する治療手段としてステントグラフトを用いた低侵襲治療を積極的に取り入れております(左下図)。さらに、本年4月にはハイブリッド手術室の運用が開始され、今まで以上に質の高い大動脈治療が可能となりました。私が中心となり、心臓血管外科一同で積極的に大動脈疾患診療を進めていく予定ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ハイブリッド手術室とは、血管造影室に設置されているような大型の透視設備を手術室内に導入したのですが、当院に設置されたPhillips社の最新設備Flex Move®は国内ではまだ少なく、近畿圏では大阪市立大学附属病院と当院の2か所に導入されているだけです(巻頭頁写真)。この設備により大型モニターに鮮明な画像が映し出されるだけでなく、術中に撮影した画像から3Dロードマップの作成も可能で、より正確な治療を行うことができます(右下図)。また最新の画像処理技術により他機種と比較するとより低線量での透視であるため、患者さんの被爆量の軽減にもつながっています。当科ではこれら最新機器の導入により、今後も大動脈疾患の患者さんへの最適な治療方法の提供を目指してまいります。



### 心臓血管外科外来担当医のご案内

|    | 月   | 火   | 水        | 木  | 金          |
|----|-----|-----|----------|----|------------|
| 午前 | 交代制 | 佐々木 | 高橋       | 加藤 | 尾藤         |
| 午後 | 交代制 | 佐々木 | 高橋(1,3週) | 加藤 | 柴田(弁膜症)・尾藤 |

柴田前部長は、異動後も金曜午後の弁膜症外来をはじめ、引き続き当院の心臓弁膜症診療に携わっています。

# 今号の循環器センター日記

大阪市立総合医療センター循環器センターでは、臨床は勿論のこと、教育および研究を加えた3点がバランス良く揃うことを目標にしております。

さて毎年4月から6月には、心エコー図検査に関する学会・研究会が多く開催されます。我々も6月末に米国のオレゴン州ポートランドで開催されたアメリカ心エコー図学会年次学術集会に参加してまいりました。



研究医の古川医師や当院出身の伊東医師、田中医師が発表してくれました。演題は、大動脈弁狭窄症の診断に関する研究、心房細動に伴う僧帽弁逆流に関する研究、心不全患者の予後予測に関する研究の3題です。発表会場では、残念ながら外国人からの質問は少なかったのですが、日本から参加しているエコー・エキスパートから多くの質問や示唆をいただき、今後これらの研究を論文文化するにあたり大変参考になりました。本当に感謝しております。

また、ご存じの方も多いと思いますが、オレゴン州は良質なワインの産地としても知られた場所です。学会の合間に美味しいワインをいただく機会にも恵まれ、良いリフレッシュになりました。

今後も臨床に直結した論文づくりを目標に頑張っていく所存です。

循環器内科 阿部幸雄

## 第16回心臓病懇話会 『超高齢者の循環器医療』

平成26年10月18日(土) 午後3時 当院さくらホール

超高齢化時代突入に際して上記のようなテーマを企画いたしました。  
多くの先生方のご参加をお待ちしております。

当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は御面倒ですが、06-6929-1221（代表）から呼び出して下さい。